

# 運動ができる子は、勉強もできる！

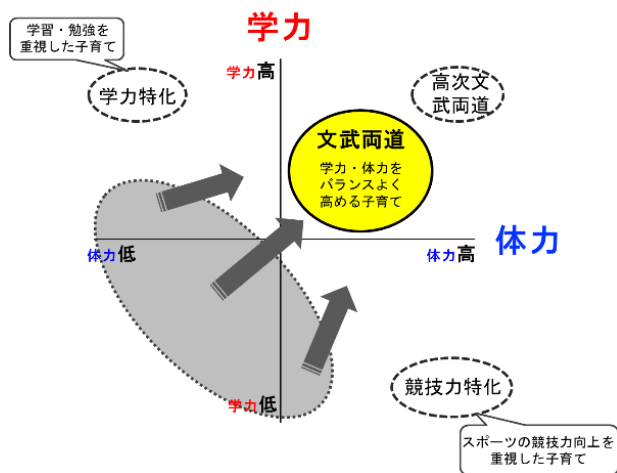
## スポーツ庁「体力と学力の関連についての分析事業」調査結果より

多治見市教育委員会 教育研究所

### 1 過去に例を見ない調査

平成31年1月、スポーツ庁「体力と学力の関連についての分析事業」を受け、岐阜大学と共同で大規模な調査を実施しました（実施責任者：岐阜大学教育学部 春日晃章 教授）。その内容は、スポーツ庁が毎年小学5年生と中学2年生に実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」と、文部科学省が小学6年生と中学3年生に実施する「全国学力・学習状況調査」の結果を紐付け（H29：小5・中2の体力データと、H30：小6・中3の学力データを個人レベルで結び付ける）、“体力と学力の関係性”について分析するというものです。今回は、本市を含む県内3市が協力しました。

「よく遊び、よく学べ」「文武両道」など、体力・運動習慣と学力・学習習慣の関係性はこれまでも注目されてきました。本市においても、多治見市型幼保小中一貫教育の施策として「習慣向上プロジェクトたじみプラン（H20～）」「子どもの健康・体力づくりたじみプラン（H24～）」により、生活習慣・学習習慣・運動習慣の育成を推進してきましたが、今回の調査は、学術的なエビデンスを得るという点からも、過去に例を見ない調査となりました。



### 2 調査データの提供

個人情報保護の観点からも、データの提供・活用には慎重な取扱いが求められました。したがって、校長会での説明・依頼に始まり、各学校の理解と協力のもと調査を実施しました。また、保護者に対しては、インフォームド・コンセントに基づき、文書で調査の趣旨等について丁寧に説明した上で、同意を得た分のみデータを提供しました。同意率は、小学生で93.0%（1,352人分）、中学生で87.7%（1,065人分）。この規模の調査としては大変高いものでした。これは、保護者にとっても“体力と学力の関係性”が関心の高い内容であることを表しています。

### 3 分析の内容

本調査では、「体力合計点の総合評価」、「1週間の総運動時間」、「運動好き度」のそれぞれについて「学力」とのクロス集計を行いました。なお、各項目の区分は、次のとおりです。

- ・「体力合計点」は、体力テストの総合評価でAからEの5段階で区分
- ・「1週間の総運動時間」は、420分以上、60分以上～420分未満、1～60分未満、0分の4区分
- ・「運動好き度」は、好き、やや好き、やや嫌い、嫌いの4件法で区分
- ・「学力」は、国語A・B、算数（数学）A・Bの正答数の合計を5段階で区分

## 4 体力と学力の関係性

ここでは、「体力合計点」と「学力合計点（国語 A・B、算数及び数学 A・B の正答数の合計）」の関係について、小学生と中学生のそれぞれに見られた傾向を報告します。お断りしておきますが、以下に紹介する内容は、あくまでも本調査の“統計データに表れた傾向”です。

小学生では、図1のように体力合計点 A 群は、他の群よりも低い正答数の割合が少なく、高い正答数の割合が多くなっています。また、D・E 群は、低い正答数の割合が多くなっています。このことから、「小学生は、体力が高いほど学力も高い傾向にあるので、小学生期の運動やスポーツは重要」であることが分かります。

一方、中学生では、図2のように A・B 群は低い正答数（6-41）の割合が少なく、A～C 群の学力に小学生ほどの差は認められません。しかし、E 群の低い正答数の割合が多いという結果から、「中学生期は、平均以上の体力を身に付け、維持していくことが大切」であることが分かります。

また、小・中学生ともに、体力と学力の関係性は、A 問題よりも B 問題の正答数に強く影響しているということが明らかになりました。「運動・スポーツに打ち込む力は、じっくり考えて問題を解く力と似ており、その切り替えができることが大切」であることが分かります。

図 1

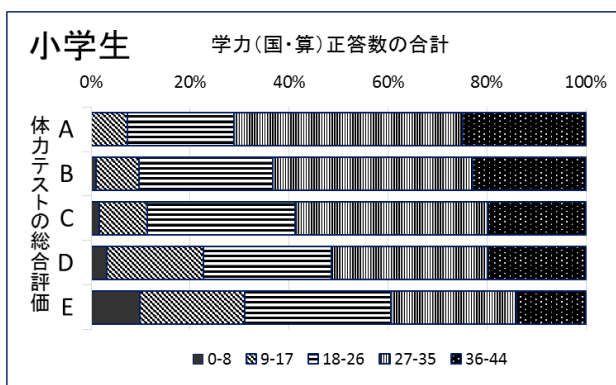
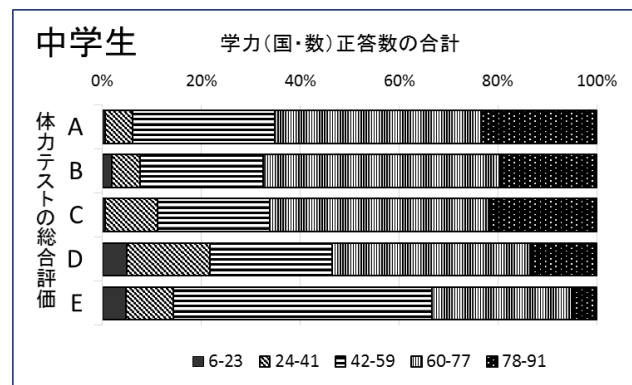


図 2



## 5 よりよい習慣を身に付ける

本調査から、体力と学力の関係性が明らかになってきました。だからといって「運動すれば学力が身に付く」「勉強すれば体力が身に付く」というようなものでもありません。ましてや運動が苦手でも一生懸命勉強に取り組んでいる子や、勉強が苦手でも運動・スポーツで力を発揮している子を否定するものでもありません。大切なのは、子どもの発育・発達の段階に応じた望ましい生活習慣の中に、適切な運動や学習の習慣を織り込んでいくこと、つまり“習慣の向上”こそが心身ともに健やかな子どもの育ちを底支えしていくと考えています。

## 6 終わりに

これまで「習慣向上プロジェクトたじみプラン」と「子どもの健康・体力づくりたじみプラン」については、それぞれに推進委員会を設けて進捗管理を行ってきました。平成 30 年度からは推進委員会を統合し、新たに「多治見市子どもの習慣向上推進委員会」を設置しました。今後も、推進委員会による協議をもとに、本調査結果等を市民に広く周知していきます。そして、子どもが自ら進んでよりよい習慣を身に付け、自立・共生し、自己肯定感を高めていくことのできる多治見市教育の具現に努めていきます。

